

# 令和3年度 栗岡学園 自己点検・評価票

平成19年12月に改正された学校教育法に基づき今年度の自己点検・自己評価を以下のとおり実施する。  
評価結果については設置者に報告する。記入項目は「教育」、「施設・設備」、「学生サービス」の3テーマに関する項目とする。

## 【記入方法】

「教育」、「施設・設備」、「学生サービス」の項目ごとに

- 1) 学校の現状がどのようになっているか
- 2) どのような良好な点や問題点があるか
- 3) 現状を踏まえた5段階による自己評価
- 4) 今後、どのようにして向上・改善を図っていく方針であるか  
を簡明にご記入ください（自己評価は数字に○を付けてください）。

学 校 名：奈良リハビリテーション専門学校

回答責任者：太田 むつ子（役職：副校長）、宮崎 尚也（役職：学科長）

# 1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	当校の教育目標である「向上心をもって取り組む」、「感受性を養う」点に関して、学内での教科や行事、臨床実習を通じて人間性豊かな人材を育成できるよう取り組んでいる。実習授業ではコロナ禍により滞りが出ており、演習等により代替を行っている。	座学や実技演習、臨床実習等を併用することで、多角的な視点を養えるよう各教員がそれぞれ対応している。また学生の特性に応じた個人対応も適宜行っており、多様化する学生の背景に応じたきめ細かい指導を行っている。一方、コロナ禍によりカリキュラムが予定通り進行しないことがあり、教育目標に沿うように調整が必要となるのが課題である。	5 + 分 4 ← う 3 ふ つ 2 → 分 1 不 + 分	医療人に必要となる基礎的態度や豊かな社会性を育む為に、教育目標に沿ったカリキュラムを予定通り展開することが必要である。今後もコロナ禍は続くと思われるが、制限が多いなかでも目標が達成できるカリキュラム、指導体制の構築を続けていく必要がある。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	指定規則に準拠した教育内容をしっかりと反映させることはもちろん、現場で導入が進んでいるロボティクスリハについての教育を実践している。	特徴ある教育として行っているロボティクスリハ教育が軌道に乗り、教育内容について発表する機会も得た。今後はアウトカム評価についての基準の明確化は課題である。	5 + 分 4 ← う 3 ふ つ 2 → 分 1 不 + 分	本校の特徴ある教育内容については、関係各所の理解も深まっており、教育モデルの構築も期待されているところである。今後も関係機関と連携を取りながら、新たな教育の形を発信できるように務めたい。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	年度当初に組んでいる学年予定が、コロナ禍により滞ることがあった。	予定がズレることはあったものの、各所のご協力で無事に予定を修了することができた。一方で、今後も続くであろうコロナ禍を想定した学年進行予定をどう組んでいくのが課題である。	5 + 分 4 ← う 3 ふ つ 2 → 分 1 不 + 分	予定と異なるタイミングで授業が進行するとその学習効果が想定したものと異なることが考えられる。このような中においても学習の質が担保できるよう、ICT を利用した教育の充実を図っていく。
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	シラバスを作成している。内容も期末や年度末に更新している。	学期開始以前に、講師・専任教員の講義内容を含めてシラバスを更新、学生に提示できるようにしている。一方、コロナ禍によりシラバスと異なる内容となった授業もあった。	5 + 分 4 ← う 3 ふ つ 2 → 分 1 不 + 分	シラバスと異なる教授方法であったとしても、教育目標がずれないようにすることが重要である。ある程度、コロナ禍による授業制限を想定したシラバスの作成を検討する必要がある。

<p>5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか</p>	<p>カリキュラムの見直しは、学年担任、教務主任、学科長を含めて教員全員で検討し、学校長の承認を得る体制をとっている。</p>	<p>指定規則変更に伴うカリキュラム整理により、現状はより幅広い臨床現場でのニーズを反映したものとなっている。 一方で、もっと現場のニーズを反映できるような体制も必要と考える。</p>	<p>5 + 分</p> <p>④</p> <p>3 ふ う</p> <p>2 つ う</p> <p>1 不 分</p>	<p>カリキュラム上の課題については学内で検討することを基本としており、これにより特徴ある教育の展開が可能となっている。 今後は多くの外部者からシラバスに対する意見を頂き、よりニーズに即した教育が展開できる工夫が必要である。</p>
<p>6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか</p>	<p>基本的な採用基準は「臨床で活用できる」また「国家試験等に利用可能」であり、学内外で有効活用できる教材を検討して採用している。外部講師にもこのことはご理解いただいているところである。</p>	<p>学生アンケートや講義の実情に即して、使用図書を選定し、より良いものを選定できるように努力している。また ICT 教育を導入し、タブレットを併用した教育手法を適宜実践している。</p>	<p>5 + 分</p> <p>④</p> <p>3 ふ う</p> <p>2 つ う</p> <p>1 不 分</p>	<p>学生アンケートを通じて、科目ごとの教科書採用についての意見を確認している。一部改善の要望もみられるため、担当講師と相談のうえ、改善に努める必要がある。</p>
<p>7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか</p>	<p>開講時にはシラバス等を通じて教育目標や評価方法を明示し、この上で学科試験を実施し評価を下している。臨床実習に於いても各実習における到達目標に基づいて、実習前後の試験や成果点を通じて判定する。</p>	<p>基本的な成績評価は科目の特徴に沿って設定した基準で行っている。 一方で、急遽遠隔授業に切り替わった科目では当初の成績評価が出来ないケースもあり、適切性を損なわない工夫が必要であった。</p>	<p>5 + 分</p> <p>④</p> <p>3 ふ う</p> <p>2 つ う</p> <p>1 不 分</p>	<p>科目ごとに定められた教育目標の達成が適切に測れるような評価方法の選択が重要である。 特に臨床実習においては、コロナ禍で経験できることの制限が個人ごとに異なり、成果にばらつきがみられた。今後は客観性を保ちながらも、学生ごとの学習状況を踏まえた評価の検討が必要である。</p>
<p>8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか</p>	<p>科目ごとに学生の理解が深まるような教授方法を選択している。また授業進行中に滞りが見られた場合、教員間での相談はもとより、外部講師からも相談を受けて、教授方法に工夫ができるようにしている。</p>	<p>科目によっては授業中の小テストや中間テスト、理解を深めるような視聴覚教材の提供など行っており、学生からは好評である。 一方で、学習が滞っている学生については補習などを行っている。</p>	<p>5 + 分</p> <p>④</p> <p>3 ふ う</p> <p>2 つ う</p> <p>1 不 分</p>	<p>理解度は学生ごとに異なるので、個人ごとに課題を設定して、補助資料や補習を行うことが効果的と考える。 学生ごとに異なる課題をしっかりととらえることが重要で、弱点克服はもとより、強みを伸ばす工夫も必要である。</p>

9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	入学前より就学前ワークブックを実施させ、学力の底上げを図るとともに時間外学習の時間を最大限活用しながら個別対応を積極的に実施している。	学力の二極化については大きな懸案の一つであり、単なる講義だけでは補えない側面がある。従って講義外における具体的な取り組みを模索しながら、検討を続けている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	入学前教育による意識づけや、入学後の基礎学力向上のための抜本的な改善を模索しながら、学習に対する意識面での改革を促す方を考える。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	科目内での教授や学内生活、ビジネスマナー講座等を通じて、医療従事者としてふさわしい立ち振る舞いがとれるよう、学内外において教職員が指導を実施している。新型コロナウイルス感染予防対策におけるマナーも併せて指導している。	現状では学内外におけるマナーや基本的な接遇面では、必要に応じて適宜指導を続けることで、学生自身の変化を促すことができているが、入学前に養われてきた背景が強く影響されるため、学内における指導が入りにくい印象を持つ学生も散見される。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	厳格に設定した基準に基づいて指導を進める一方、各学生個人がもつパーソナリティや背景を含めた総合的なアプローチができるように努力する必要がある。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	教員が各個人で学会や研修会を通じて研究発表や自己研鑽を続けている。また認定理学療法士は学校教育分野が2名、スポーツ理学療法分野が1名在籍しており、より良い教育を提供できるよう努力している。	教育方法手段に関しては、これを客観的に判断し、次に活かせるような仕組み作りが重要である。コロナ禍により学会等がオンラインになることがほとんどで、外部の先生方との意見交換などの場が少ないことが問題である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	教育手法におけるスキル向上は教員自身の自己研鑽に依っており、今後も継続的に取り組んでいく必要がある。文献や発表を渉猟し、効果的な教授方法を模索し、また自らも発信できるような土壌作りを進めていく。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	各講義終了後には授業アンケートを実施し、担当教員へのフィードバックを行うとともに次回への検討材料としている。また最終学年終了時には学校生活全般へのアンケートを実施し、学校運営に役立っている。	講義アンケートにより、各科目におけるフィードバックが得られるようにしている。また教員により独自に科目内における他己評価を実施し、自身の教授内容に反映できるように取り組んでいる。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	アンケート内容をより講義内容に反映できるようにする必要があり、またそれは学生のニーズを正確に反映させることが重要である。学生による評価が全てではないものの、客観的にみて修正が必要なものであれば、積極的に取り組んでいく必要があると考える。

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	学生人数に対して教室や治療実習室、機能回復訓練室など適正な教室数を確保している。また治療用ベッド等、学内講義に於いて必要な物品を整理、利用できるよう適宜調整している。	使用頻度の低い教室は、3年生の国家試験対策等では新型コロナウイルス感染予防対策による密を避けた利用が出来ている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	各教室内における附帯設備については、今後も適宜必要な物品の補充及び改修を進めていく。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	図書室に於いては必要な図書を随時追加しており、また雑誌類についても定期的に検討をしながら学内教育に耐え得る体制を提供できている。また学生の要望に応じた活用ができるようにしている。	例年と同じく蔵書数としては図書・雑誌を含めて充分量であり、かつ活用できる環境を整えている。しかしながら学生自身が図書を使って学習しなくなってきたのも実情である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	学生の教育に有益な図書に関しては、必要に応じて追加できるように継続して管理していく。学習に効果的な図書については、定期的に教員や講師からの情報を収集して、学生に提示できるよう検討していく。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	各部屋の数・広さに関しては現状、問題は見当たらない。また各部屋に附帯している備品に関しても、その数と状態を定期的に点検している。	指定規則に定められた必要な物品が揃えられている。特にリハビリロボットやICT教育に関する付帯設備は非常に充実しており、他校では見られない本校独自の特徴となっている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	教室設備と同様、学内備品の管理状態を確認し、必要に応じて修繕や新規導入を継続的に実施していく。
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	学内Wi-Fi環境も増強し、教室にも電子黒板を導入するなど学修効果のある取り組みを推進している。	ICT教育や、遠隔授業に対応すべく昨年度導入した視聴覚機器が有効に活用されている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	ICT教育の環境づくりに関しては今後もアップデートを重ねていく。専任教員を中心に積極的に学内講義に導入し、より学習効果を高められるよう取り組んでいく。

5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	法人で共通の学生寮を保有しているが、遠方からの入学者は本校に近い一般のワンルームマンションを選ぶ傾向にある。	法人の学生寮は希望者が多く関連校の学生に有効に活用されている。本校の近くに学生寮があれば活用できると思われるが、物理的な距離があるため活用できていない。	5 十 分	④ ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	学生が快適で安心安全に学生生活を送れるように、今後も学校として近隣の業者とも連携をとり、賃貸マンション情報等の収集に努める。
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	学内に体育館は保有しないが、近隣にグラウンドを保有している。体育の授業では関連校の体育館を利用している。	グラウンドについては使用頻度が低いが、地域貢献の一環として地元の老人会イベントやスポーツ活動に有効に利用されており、地域貢献の一環としての側面もある。	5 十 分	④ ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分	今年度も新型コロナウイルス感染対策の観点より、積極的な体育館の利用を控える場面が多かった。今後の状況次第ではあるが、徐々に本来の利用が出来るように戻していきたい。

### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策				
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	原則 2 名によるクラス担任制をとり、学生の状態に応じて臨機応変に対応している。問題が生じた場合は他教員も含め、保護者も含めた包括的な取り組みが行えるようにしている。	原則的に各学年を担当する教員による対応をベースとするが、対応が難しいケースにおいては、教員間で情報共有をしつつ、より適切な対応が取れるように努力している。	5 十 分	⑤ ←	4 ふ つ う	3 →	2 不 十 分	学生対応における基本的な基準は、教員による人間力に依る要素も大きい。自らの経験則だけに頼らない俯瞰的な判断が出来るよう、情報共有を欠かさず、一定のルールづくりを徹底していく。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	専門的なものでなければその都度、担任を中心に対応している。学生が希望すれば、臨床心理士によるカウンセリングを随時実施している。カウンセリングについて、学生が学内で受けることは可能である。	例年同様、学内では教職員が学生にとって相談しやすい配慮や環境作りを行っている。また臨床心理士によるカウンセリングもプライバシーを遵守しながら、定期的実施できている。	5 十 分	⑤ ←	4 ふ つ う	3 →	2 不 十 分	学生が有する心理的側面の問題は、年々多様化しており、その内容も複雑である。画一的な対応では困難なケースも多くなっており、また背景には家庭環境に大きく影響されていることも多いので、臨床心理士による専門的な視点での介入も含めた総合的なシステム構築が必要である。

3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	学内ラウンジが休憩スペースに該当する。その他食事や学生同士の交流場所として活用している。	今年度は密を避けるため、従来の休憩スペースだけでなく、他の場所においてもラウンジと同様の利用ができるようにするなど弾力化した対応が取れた。	5 + 分	④ ←	3 ふ つ	2 →	1 不 十 分	学生にとって利用しやすい休憩スペースや生活環境の見直しに加えて学内における教室使用ルールの遵守や理解を深めていくよう促す必要がある。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	売店は設置されていない。食事は主に学生ラウンジと教室を利用している。ラウンジには冷蔵庫やレンジ、キッチン等があり、学生が適宜使用できるようにしている。	学内に食堂や売店はないが、近隣にも食事を購入できる施設（コンビニやスーパー）があり、現状では恵まれた環境であると言える。	5 + 分	④ ←	3 ふ つ	2 →	1 不 十 分	学内の構造上、今後も売店などの設置は困難である。 密を避けた結果、食事スペースが少なくなるについては、利用できるエリアを拡大するなど更なる検討を続ける。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	留年生に対しては特別学費支援制度を導入しており、継続的な学習ができるような経済面でのサポートを実施している。 学校独自の奨学金は現状設けていない。	特別学費支援制度については今年度も該当者がほぼ利用し、継続的な学習ができる意欲を担保するのに一定の効果があつたと考える。	5 + 分	④ ←	3 ふ つ	2 →	1 不 十 分	特別学費支援制度以外にも、今後は特待生制度等の成績優良者に対する支援制度も模索していきたい。
6. その他	学生の交通手段として適応範囲を限定した上で、車での通学を許可している。 また子育て支援として、関連施設であるこぐま園を利用できる。	育児をする必要がある学生に対して、勉学に集中できるよう、こぐま園への送迎の利便性を考慮して、車通学を許可している。	5 + 分	⑤ ←	4 ふ つ	3 →	2 不 十 分	学生の家庭環境により勉学に臨むことが困難になる場合がある。そのような様々な状況が増えてきているが、それに対応するため適宜規則を柔軟に運用している。

#### 4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

- ・Google Workspace の運用により、教材の配信等が実用的となり、より効果的な学習支援が実践できている。
- ・ロボティクスリハ教育の充実が進められており、これは他校で見られない本校独自の特徴である。
- ・様変わりする臨床実習の学習を支援するために、本校独自の思考過程整理ツールや実習管理システムを開発・運用している。

以上